

# インタラクティブ 公庫が5000万出資

## ITベンチャー、成長後押し

沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長）は17日、インタラティブベンチャーの琉球インタラクティブ（宜野湾市、臼井隆秀社長）に対する5千万円のリーダーリング産業支援出資を発表した。沖縄経済をけん引する産業に関連した民間企業の成長を後押しする出資制度で、2014年度の創設以来8件目。IT関連



産業では3件目となった。琉球インタラクティブは、求職支援サイト「ジョブアンテナ」に人工知能（AI）を導入して求職者と企業をマッチングするシステムの開発や、センサー分析と通信技術を組み合わせて毎日の排便から健康状

出資を実施した沖縄振興開発金融公庫の前村司課長（左から2人目）と琉球インタラクティブの臼井隆秀社長（同3人目）ら17日、那覇市おもろまちの沖縄公庫

態を遠隔管理するIoTヘルスケア機器の事業化などに取り組んでいる。

出資は9月27日に沖縄公庫が第三者割当増資を引き受けて実施し、琉球インタラクティブは資本金を3800万円、資本準備金を6200万円に増強した。

臼井社長は「AIをビジネス化していくための研究開発や、サービスをプラットフォーム（磨き上げ）していくための設備投資など今後の資金需要が想定される」と述べ、今回の増資を設備投資や高度人材の採用などに活用していく。

沖縄公庫融資第一部の前村司課長は「財務基盤の強化が図られることで、民間金融機関からの融資拡大も期待できる」と述べた。

## AI活用事業 公庫が出資 琉球インタラクティブに5000万円



琉球インタラクティブへの出資を発表した沖縄公庫の前村司課長（左から2人目）と臼井隆秀社長（同3人目）＝17日、那覇市・沖縄公庫

沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長）は17日、ウエブ開発の琉球インタラクティブ（臼井隆秀社長）に5000万円を出資したと発表した。出資金を生かし、人工知能（AI）を使った求職サイトや、病気のリスクを判別するトイレ開発といった新規事業を進める。

AIは、求職者のプロフィールや、サイトの閲覧方法などの行動形態を踏まえて、最適な企業を提案する。開発を進

めており、同社が運営する就職・転職支援サイト「ジョブアンテナ」に搭載する。

トイレは便や尿を分析して病気のリスクを予測し、スマートフォンで利用者に伝える。2019年度のテスト販売を目指している。

出資は9月27日付で、技術者の採用や設備投資などに充てる。臼井社長は「出資を機に事業拡大を加速させたい」と述べた。